

## モンゴル人キリスト教信者 —エンヘビリグとその墓標を巡って—

都馬 バイカル

スウェーデンのキリスト教モンゴルミッション (SMM) は、1906年から1944年まで内モンゴルのチャハル地域で宣教事業を展開していた。宣教師たちは、献身的な医学治療や様々な奉仕活動を通じ、モンゴル人の理解を得、また慈善事業 (孤児院など) や教育事業 (教会学校) を行なうことにより数多くのモンゴル人は、仏教徒からキリスト教に改宗されるようになる。そのなか、信者のエンヘビリグは、特別な役割を果たしたのである。

エンヘビリグは、1899年チャハルのある貴族の家に生まれる。20歳前後病気に患い、ハローンオスのキリスト教宣教所を訪れる。治療中、エンヘビリグは宣教師エリクソンにモンゴル語を教え、かつモンゴル語『讚美歌集』の手写の仕事を手伝ったという。1か月後、病気が完治して帰郷したが、ある夜、イエス・キリストの夢を見たという。それがきっかけで家族の反対を振り切って、彼はハローンオス宣教所に戻り、受洗される。

その後、エンヘビリグは正式な SMM の一員として、聖書の活字印刷の作業や聖書配布などの布教事業に携わる。当時、数多くのモンゴル人は、SMM のメンバーとして、各地域に活躍していたが、そのなか、エンヘビリグは 1923 年ウルガ (現ウランバートル) に赴き、現地のキリスト教会学校の教師として勤務する。1924 年 4 月、モンゴル人民革命党政権の命令によって、すべて宣教師がモンゴル国から追放されるが、その一ヶ月後、SMM の宣教師たちと一緒に内モンゴルに戻り、宣教活動をしなが、グルチャガン宣教所の教会学校にも勤め、1930 年頃グルチャガン宣教区の区長となっていた。

1933 年 2 月、エンヘビリグは、土匪 (強盗集団) と中国国民党政府軍との争いに巻き込まれ、グルチャガン宣教所の近辺で国民党政府軍に殺される。スウェーデンのキリスト教モンゴルミッションは、彼のために墓碑をたてた。その墓碑には「『わたしはよみがえりであり、命である』(ヨハネの福音書 11:25) という聖書の言葉と、その名「キリスト信者エンヘビリグ (1899-1933)」がモンゴル語と中国語で刻まれている。現在、その墓碑は、元グルチャガン宣教所の遺跡の裏の丘に位置するスウェーデンのキリスト教モンゴルミッションの共同墓地に立っている。

実際、彼と同世代のモンゴル人キリスト教信者は、モンゴル国のみならず、日本まで宣教事業を展開し、後に台湾、アメリカ、ヨーロッパ (デンマーク、スウェーデンなど) まで広げられている。20 世紀前半から今まで、彼らはそれぞれ様々な運命を辿ることになるが、SMM がきっかけでモンゴル人キリスト信者は、現在、元気で暮らしている人がいれば、その次世代に受け継がれ、さらに活躍している者もいる。

本発表では、エンヘビリグの生涯を考察しながら、当時のモンゴル社会情勢やモンゴル人の信仰事情、聖書翻訳などについて探究したい。